

ひかり

2019 年 7 月号



St. John

日本聖公会 三光教会

第 679 号

〒142-0064 東京都品川区旗の台 6-22-24

電話 03(3781)2554

FAX 03(3781)2544

<http://nskk.org/tokyo/church/sanko/stephen/>

創立 救主降誕 1912 年(大正元年)11 月 2 日

父が持っておられるものはすべて、わたしのものである。だから、わたしは『その方がわたしのものを受けて、あなたがたに告げる』と言ったのである

(ヨハネによる福音書 16 : 15)

戦い

司祭 ヨナ成 成鍾
ソン
ソンジョン

また、戦いが始まりました。戦いとは祭壇の前に立つて聖餐式文をゆつくり読むことです。特に「主

の祈り」を唱えるとき、私の戦いは激しくなります。他の部分と異なつて主の祈りを唱えるとき、信徒の皆さんの口の動きがさらに早くなるからです。私より年上の方々が多いのですが、お祈りを唱える速さは、まだ若い私の呼吸より先に立っていきます。もちろんその流れに合わせて唱えようと思えば付いて行けないこともないですが、その時、主の祈りはどうしても私にとってはお祈りになりません。

主の祈りだけではなくて、聖餐式全体が一つのお祈りだとすれば、何か物足りなくて惜しいなと思う部分は一つや二つだけではありません。それゆえ、私はどこでも新しい教会に赴任していく度に、式文に頭を押し込んで文字を勢よく読んでしまう信徒の方々の戦いを始めます。この戦いは信徒の

皆さんだけではなくて、聖職者たちとも時おりしました。でも彼らとの戦いは何回かの挑戦を通して結局、自ら諦めるようになりまして、彼らの信仰の厚さと速さに、私の弱い唇は相手になりませんでした。

聖公会は「祈禱書教会」という別称を持っています。他の教会が持つていない長所が多くありますが、まかり間違えば書いてある文字にはまつてしまう危険性があることもあります。実際、私たちの祈りは、祈禱書に書いてある文字だけではなくて、文字と文字、文章と文章の間に、余白として存在する神様の助けに頼る場合が多いのです。従つて文字一つ一つを、念を押すように噛みしめながら読むことと、その文字と文章の間に守られる沈黙が例えようも無く重要で、必要であるのが聖公会の礼拝でもあります。人間が整えて作った祈禱書がそうであるなら、ましてキリストがくどくど述べてはならないと教えてくださった主の祈りは、これ以上お話を加えることは無いのではないのでしょうか。

7月～8月の予定

◆7月

16 日(火)	聖書に学ぶ会(新約)
21 日(日)	聖霊降臨後第 6 主日
22 日(月)	マグダラの聖マリヤ日
23 日(火)	聖書に学ぶ会(旧約)
25 日(木)	使徒聖ヤコブ日
26 日(金)	おとめ聖マリヤの母アンナ
28 日(日)	聖書に学ぶ会(旧約)
	聖霊降臨後第 7 主日

◆8月

4 日(日)	聖霊降臨後第 8 主日
5 日(月)	8 月逝去者記念礼拝(聖餐式)
6 日(火)	主イエス変容の日
8 日(木)	司祭修道士ドミニコ
10 日(土)	殉教者執事ローレンス
11 日(日)	聖霊降臨後第 9 主日
15 日(木)	主の母聖マリヤ日
18 日(日)	聖霊降臨後第 10 主日
20 日(火)	修院長教会博士ベルナルド
24 日(土)	使徒聖バルトロマイ日
25 日(日)	聖霊降臨後第 11 主日
28 日(水)	主教教会博士オーガスチン

◆9月

1 日(日)	聖霊降臨後第 12 主日
2 日(月)	9 月逝去者記念礼拝(聖餐式)
3 日(火)	聖書に学ぶ会(新約)
8 日(日)	聖霊降臨後第 13 主日
13 日(金)	殉教者主教シプリアン

※8月の聖書に学ぶ会は休みます。

男子会だより (6月)

男子会主催の川越日帰り研修旅行を6月24日(水)に行ないました。梅雨に入り、雨が心配されましたが、当日は良い天気で暑さ対策も必要な程でした。

朝10時50分に川越駅に21名の方が集合し、バスで連雀町へ。その後はご希望のランチごとに3〜5人のグループに分かれて、川越の街を散策しました。私も普段あまりお話しする機会がなかった皆さんと、様々な話題で食事をしながら、また散策しながら楽しい時間を持つことができました。

散策を続けた後は北関東教区川越キリスト教会に集合し、牧師の鈴木伸明司祭のお話を伺い、川越の歴史と教会の現状、その働きなどについて学びました。楽しく有意義な研修旅行でした。

(記・平山 新)

■教会と私

再び神様のお導きで

吉川 和明

私が初めて三光教会を訪れたのは15歳の時でした。合唱サークルの先輩でKさんという方に住まいが比較的近い、という理由で同級生のT君と二人で「日曜日の礼拝に来いよ。」と誘われ、以来通い始めました。アコライトに所属し、先輩友達もいっぱい出来て、毎週楽しい日々を過ごしてきました。

18歳の時、受洗の誘いを受け、すんなり受洗致しました。今井正道司祭、大木弘行司祭、根本圭一朗聖職候補生の時代です。根本先生には聖書の勉強を教えて頂き、二人きりで晩祷を守り、聖歌も二人きりで唱っていたのが、強烈な印象として残っています。その後夕暮を背に根本先生の愛車で駒沢公園に行き、ブランコを漕ぎながら暗くなるまで語り合ったのが、とても楽しい思い出です。

その後、学校を出て、1年勤めた後、商売を始めてしまい、主日に教会へ行けなくなってしまうに至りました。以後40年、仕事に夢中になっていましたが、62歳の時、神様のお導きで再び信仰生活に戻る事が出来、二度目の青春(?)を謳歌している最中です。

澤田美喜記念館を訪ねて

このたび清瀬聖母教会から三光教会に教会籍を移していただきました渡邊勝弘と申します。三光教会の社会委員会で澤田美喜記念館を訪ねることを知り参加しました。禁教時代のキリシタンの遺物に興味はありましたが、高校生の頃澤田美喜さんの著書を読んだことがあり澤田美喜さんをもっと知りたい思いがありました。

エリザベスサンダースホームの正門を入り驚いたのは、100m程の長いトンネルです。岩崎家の別荘時代からあったそうで、このトンネルを抜けたら別世界に入る、そんな思いから岩崎さんは作ったのかもしれないと勝手な思いを巡らせながらぐり抜けました。

宮崎理事長から澤田美喜さんについて、また山田施設長からホームの説明を聞き移動、山の上の建物では小学生高学年の子供たちが家庭科で楽しそうに料理を作る様子を見ました。木々の隙間を通して弓形の海岸が一望できる素晴らしい景色が目に入り、ここの高さ

なら大津波でも大丈夫と思いながら記念館へ参りました。

館長の西田さんが直々に遺物の説明をして下さり、その豊富な知識と解説内容は素晴らしかったです。一見普通の鏡ですが光を当てて壁に反射させるとキリストの像が浮かび上がるという凄い物もありました。弾圧、恐怖、不安、苦難に屈しないキリシタンの固い信念と強い精神力を遺物から感じました。

G HQと戦い、世間の蔑みから子供達を守り、施設運営の金策に走るなど苦難と対峙し耐え尽力された澤田美喜さんの優しさ、勇気、気概、固い信念はキリシタンの心と重なる思いがしました。遺物が納められたチャペルは子供達を守り育てた澤田さんの折れなかった心を癒し、希望と前進する力を与えてもらえる駆け込み寺だったそうです。神様から与えられた使命を感じ受けとめ行動し、そのミッションを実現された澤田美喜さんのキリスト者としての足跡を忘れてはならないと強く思う一日でした。

(記・渡邊勝弘)

◆教会報「ひかり」に御寄稿を!!
エッセイ「教会と私」。内容は自由。400～500字程度。広報委員にお届けください。いつでもお待ちしています。

教会のお掃除にご協力を

聖堂内外のお掃除の協力者が少なくなりました。土曜日の午前10時から1時間程ご奉仕ください。ご協力いただける方は直接参加してください。

はじめて教会にいらした方へ

礼拝様式に馴れない方は椅子にお掛けになったままで結構です。

- 礼拝中の献金は、信施金として伝道のために献げられるものです。金額は自由です。
- わからない点は隣の席の者か案内係にお聞きください。

礼拝のご案内

■主日礼拝

午前 7:00 早祷・嘆願
午前 7:30 聖餐式
午前 9:00 ステパノ会
(日曜学校)礼拝
午前 10:30 聖餐式
午後 4:00 夕の礼拝

■平日礼拝

月曜日から土曜日までは、
毎朝 6:30 の早祷に引き続いて聖餐式

日本聖公会 三光教会 教会報「ひかり」 2018年7月号(第679号)

発行者: 司祭 成 成鍾 編集・印刷: 三光教会広報委員会